



市民活動や地域活動に取り組む皆さんを紹介します。

まらっと! introduction

津の街をにぎやかに



三重短期大学生生活科学科
梅澤ゼミの皆さん
三重大学教育学部
消費生活科学
コースの皆さん

カフェを通じて、津の街の活性化を目指す取り組みに一役買おうと、準備を進めている学生の皆さんがいます。彼女たちは、三重大学教育学部で消費生活科学を学ぶ2年生7人と、三重短期大学生生活科学科で食物栄養を学ぶ2年生5人。昨年からはじめた津市の中心市街地活性化チャレンジショップ事業と、大学・地域連携事業の一環として、12月23日(金・祝)に大門大通り商店街のにぎわいプラザに「CAFÉ HONO BUONO(カフェほのぼ〜の)」を出店します。このカフェでは、実習などで修得した栄養バランスの良い食事の提供と、企画・広報や消費者

の立場、商店街の役割など消費生活に関する知識の習得を目指し、お店のコンセプトやメニュー、内装、PR方法もすべて自分たちで考えます。当日は三重短大の皆さんが調理を、三重大の皆さんが接客を担当します。

三重短大の河原早紀さんたちは、当日のメニューを決めるため、何度も試作品を作っています。材料には栄養豊富で安心・安全な三重大学附属農場の野菜を使う予定で、地元の食材を使った、来てくれる人がおいしいと笑顔になってくれるような料理を研究中です。「今年は、大門大通り商店街の菓子店と共同で作るデザートも計画しています。菓子店で作ってもらったものに、私たちがトッピングをして出したいと思っています」と河原さんは教えてくれました。

一方、三重大の皆さんは、出店するお店のコンセプトや、それに沿った内装、PRをどうするかなど、それぞれ役割を分担して準備を進めています。コンセプトはそれぞれが考えた案を持ち寄りました。「来て



盛り付けにもクリスマスらしさを出そうと、意見を出しながら試行錯誤を繰り返す三重短大梅澤ゼミのメンバー。



みんなで持ち寄ったコンセプトの案。楽しそうなアイデアが並ぶ。

くれる人の心が温かくなるようなお店にしたい」「クリスマス気分を味わってほしい」「リラックスできる空間にしたい」など、いろいろな思いが集まり、それをまとめながら、内装担当の関野友梨さんを中心に、コンセプトに沿った店内の飾り付けなどを決めていきます。関野さんは、「お店に来てくれる人が、家でも真似したいと思ってもらえるような飾り付けをして、楽しくほのぼのした気分になるような明るいお店にしたいです」と話します。

来てよかった、おいしかったと思ってもらえるお店にしたい、そんな思いで彼女たちが力を合わせて作る「CAFÉ HONO BUONO」が、津の中心市街地に、にぎやかなクリスマスを運んでくれそうです。



三重大消費生活科学コースの皆さんは、担当者を中心にして話し合い、案をまとめていく。